

# 令和4年度 東京都立東久留米特別支援学校 学校経営計画

<b>&lt;校訓&gt;</b>  <b>知 仁 勇</b> 学び続ける人に (学び続ける知者であれ) 思いやる人に (心を思う仁者であれ) 行動する人に (果敢に挑む勇者であれ)	<b>&lt;学校の教育目標&gt;</b> ・青年期にふさわしい健康な体と豊かな心を育み、心身の健全な発達を図る。 ・基本的な生活習慣を確立するとともに、自ら考え主体的に行動する力を育てる ・社会生活に必要な基礎的な学力を身に付け、思いやりの心と規範意識をもった人間を育成する。 ・他者との関りを通して、社会性や協調性、表現力を育み、社会の中で豊かに生活するための力を伸ばす。 ・社会の一員として働くために必要な知識や技能、態度、習慣を育てる。	<b>&lt;東久留米ウエイ&gt;</b> ・生徒ファーストを貫き、特別支援教育のトップリーダーを目指します ・生徒の多様な自立と社会参加を切り開く努力を続けます ・主体的に社会に働きかけ、貢献し、皆の幸せを追求する人材を育てます
--	--	---

## GRIT 生き抜く力へ

～社会に出る前、最後の3年間を過ごす学校として～

<真の社会人となる> 社会の誰かを支える人となるために。		今年度の取組目標と方策		最終報告		
中期目標と方策		1 教育目標と方策	2 数値目標	実施回数等	達成状況(◎○△)	コメント
学 ぶ	人権を尊重した教育の充実	1 自己肯定感、自己有用感やお互いを思いやる気持ちの育成	随時(全教育活動)	随時(全教育活動) 校内研修2回実施	◎	性の多様性や精神科医による研修会を実施したが更なる研鑽を行っていく。
		2 人格を尊重した「さん」呼びの徹底	随時(全教育活動)	随時(全教育活動) 人権に関する研修1回実施	◎	引き続き人権を尊重した対応を徹底していく。
		3 生徒のロールモデルとなる教職員の態度・折衝力向上	肯定的評価90%以上	【普通】98% 【職能】100%	◎	学校評価アンケート項目①
		4 いじめ早期発見の徹底、SOSの出し方に関する教育	学期1回の授業	3回実施	○	各学期末に実施
		5 スクールカウンセラー等によるカウンセリング機能の強化	カウンセリング50回、支援会議による状況改善モデルケース共有1件以上	カウンセリング90回以上実施	◎	職能開発科全員面接(95%達成)
	新学習指導要領に対応した教育課程編成	6 3年間シラバスに基づく指導内容の充実	全授業	全授業	◎	
		7 作業学習、職業に関する専門教科の指導内容の充実	作業のスタンダード化、生産物等のブランド化、コース授業の「型」作り、両科の連携	各授業内で随時実施 【普通】作業学習 【職能】職業に関する専門教科	○	【普通】スタンダード化できている部分もあるが、まだ発展途上である。 【職能】「型」としては半分程度できた。ブランド化にはまだ時間を必要とする。
		8 個別指導計画等、諸計画の満足度向上	肯定的評価90%以上	学校評価アンケート	△	肯定的評価 普通科生徒…58% 職能開発科生徒…87% 普通科保護者…91% 職能開発科保護者…92% *普通科生徒の肯定的評価を高めることが課題。
	教員の専門性向上と魅力ある授業	9 3観点を踏まえた指導の徹底及び成果を捉えた評価の実施	全授業	全授業	◎	学習指導案は、全て3観点の指導について表記
		10 強度行動障害等への対応力向上	研修年間1回	関連する校内研修1回実施	○	研修1回は実施したが、外部専門員を活用するなど更なる専門性の向上が必要である。
		11 専門家によるアセスメント及び授業コンサルタントの実施	普通科年間50件以上アセスメント及び相談、職能開発科年間30回特別専門講師との授業検討	【普通】50件以上実施 【職能】毎授業実施30回以上実施	○	Vineland-II【明科1年】 太田ステージ【普通科1年】 ウェクスラー式知能検査、感覚プロフィール、NCプログラム【必要に応じて実施】 個別指導計画や実際の指導への更なる活用が課題
		12 重度重複学級の指導及び教育環境の構造化推進	ケーススタディ3回以上	7回以上実施	○	普通科、職能開発科ともに各学年でケーススタディを実施 重度重複学級については、普通科1年及び3年で実施
		13 研究授業・研鑽授業による授業力向上の推進	全教員年間1回以上	主担当授業者年間1回以上実施	○	
		14 ICT活用推進 一人1台端末の組織的活用の推進	全教科、学級指導	一人1台端末の配布・試行実施	○	今後も活用を推進
		15 具体的な「手立て」「構造化」等の支援による重点指導	個別指導計画への記載・実施	全個別指導計画	◎	
		16 ライフスキルの視点を踏まえた授業の実践	個別指導計画への記載・実施	全個別指導計画	◎	
	自律の基礎となる生活指導	17 「生徒心得」を活用した指導	学期1回(学年集会等)	3回以上実施(学期末等)	○	
		18 SNSに関する安全指導の実施	年間3回以上	3回以上実施(学期末等)	○	セーフティ教室(2学期)でも実施
		19 アンガーマネジメント等の指導の実施	研修年間1回	関連する校内研修2回実施	○	
		20 人権意識をふまえた道徳科の実施	全授業	全授業	◎	
	進展する社会に対応した教育の充実	21 スポーツ・芸術教育等の推進、卒業生への社会人講座の実施	対外試合、部活動交流、作品展年間3回、本人講座年間5回	久留米西高校との交流等実施 本人講座年間10回実施	◎	
		22 生徒が読書に親しむ環境づくりと学校図書活用の推進	生涯教育を見通した読書への意識向上	図書室、図書コーナーの充実	○	図書貸出ルール策定 図書コーナーに配架 図書委員による開館、貸出の実施 更なる充実を図っていく。

(まとめ)  
「学ぶ」の項目に挙げた取組みは、人権を尊重した教育や進展する社会に対応した教育の充実、教員の専門性の向上などを考え定めました。生徒一人一人の可能性を引き出し、卒業後も自ら学び続け、生き抜いていく力を身に付けられるように新学習指導要領に対応した指導内容の充実を図りました。次年度も個々の実態に応じた個別最適な学びと協働的な学びなど、さらに「学ぶ」を進めていきたいと考えています。

＜輪をつくる、広げる＞ つながりの輪を広げるために				実施回数等	達成状況 (◎○△)	コメント	
つな がる	進路指導・職業教育の充実	作業学習・職業に関する専門教科の指導の充実	23 作業学習指導内容の精査・検討及び構造化の推進	外部専門家年350時間以上 事例の共有化	350時間以上実施	◎	担当者間で内容の精査や構造化について検討を実施した。 また、全体へのフィードバック、ケーススタディも実施した。
			24 職業に関する専門教科の指導内容の充実、スタンダード化	特別専門講師400時間以上 事例の共有化	400時間以上実施	◎	都度、助言を受け担当者間で情報の共有を図った。
		個に応じた進路指導の充実	25 生徒の意思、適性に応じた適切な進路指導の実施	進路希望実現(100%) 企業就労率(30%)	進路希望実現(100%) 企業就労率(27%)	○	
			26 個別の移行支援計画による就労支援機関等との円滑な引継ぎ	100%実施	100%達成	○	今年度は、普通科3年のみ実施
	地域連携を意識した教育活動の充実	社会貢献活動・交流活動の実施	27 地域、関係機関と連携した作業学習、職業に関する専門教科の実施	地域清掃、販売会、カフェ	【普通】20回以上実施 【職能】20回以上実施	◎	近隣高等学校清掃、作業学習製品外部販売の実施、職能マルシェ等実施
			28 文化祭等での地域、近隣中学、高校との交流活動	文化祭プログラムの発出	9月東久留米フェスタ実施	◎	令和5年度に向け、新型コロナの規制がない状態での東久留米フェスタ実施を想定して準備を進めている。
		関係機関と連携した支援会議の充実	29 適時迅速な支援会議の実施	年間随時、校内支援委員会定例会月1回	支援会議10回以上 校内支援委員会定例会7回以上、 臨時会15回以上	◎	
		主権者教育、消費者教育の充実	30 地域選挙管理委員会と連携した生徒会選挙の実施	年間1回以上	3月7日 普通科生徒会選挙実施 3月8日 職能開発科生徒会選挙実施	◎	今年度より職能開発科の生徒会を発足することができた。
			31 成年年齢を見据えた消費者教育の実施	年間指導計画への位置づけ	社会科・家庭科等で実施。	◎	
		32 保護者面談の積極的な実施	保護者面談年間4回 (Teamsによる面談を併用)	年間4回実施	◎		
	開かれた学校づくり	保護者との連携強化	33 学校評価アンケート回収率の向上	回収率85%以上	生徒回収率96% 保護者回収率85%	◎	
			34 授業参観、学校公開の実施	授業参観年間5回 学校公開年間2回	授業参観年間6日 (土曜参観1日 参観週間5日)	◎	
		保護者、地域関係機関との積極的な情報共有の推進	35 保護者及び地域関係者への進路学習会実施	年間8回以上	年間8回実施	◎	
			36 戦略会議の実施	年間3回、ビジョン・戦略の策定と東ね	年間3回実施	◎	
	積極的な情報発信、相互共有	インターネットを活用した情報発信・共有	37 HPの積極的展開・通信等の電子発行による情報力の強化	更新月10回以上 HP閲覧回数40,000アクセス以上	更新月10回以上達成 HPアクセス約50,000回	◎	
			38 アプリ等を活用した情報共有機能の強化	システム構築、活用状況	Teamsを活用した面談実施等	○	
	特別支援教育の理解推進	都立高校等における特別支援教育の充実	39 発達障害支援に関するセンター的機能の強化	担当地区の情報交換会1回、訪問支援各校1回	区立学校地区情報交換会3回地域 情報交換会1回 高校訪問支援8校	◎	
			40 多摩地区、西区部を中心とした中学校への理解推進	出前授業等の実施 希望校100%	希望校対象に100%実施	◎	
		職能開発科理解推進の充実	41 職能開発科科学の説明会及び理解推進活動の多角化	参加者800名、参加者満足度90%	参加者756名 参加者満足度90%以上達成	△	
					(まとめ) 「つながる」の項目に挙げた取組みは、開かれた学校づくり、保護者の方はもとより地域や関係機関の方々、外部の専門家など、様々な人々の視点で考え定めました。昨年度は制約があった外部に向けての取組みも普通科は作業学習での外部販売、職能開発科は職業に関する専門教科での職能マルシェなど多く実施することができました。次年度もデジタルを活用するなど、さらに「つながる」を充実させていきたいと考えています。		

＜より良い人生を過ごす＞ 人生の様々な出来事や社会の変化に備え、転機を機会とし、よりよく生きるために				実施回数等	達成状況 (◎○△)	コメント	
進 める	防災教育の推進	学校及び地域の状況に応じた防災・避難訓練の実施と体制整備	42 危機管理マニュアル、BCP整備、及び検証	避難訓練11回、BCP訓練1回	避難訓練11回実施 等	○	
			43 宿泊防災訓練による総合的な防災学習の実施	年1回(1年生対象)	6月実施	○	
			44 マチコミメール、伝言ダイヤル等を活用した緊急時連絡の実施	随時、訓練年間1回	6月実施	○	
			45 防災教育推進委員会による各種避難訓練の評価改善	年間2回以上	7月、2月実施	○	
		46 地域と連携した救助救急訓練の実施	2月実施 消防、警察、自治体、近隣住民	中止	△	感染症対策のため、中止	
	健康づくりと体力向上	食育の推進	47 食育新聞(給食便り)等の発行	生徒への満足度調査実施、給食便り月1回	給食便り月1回発行 満足度調査実施 リクエスト給食の実施	◎	
			48 食物アレルギーとエビベン使用に関する研修の実施	年間3回実施	食物アレルギー1回 エビベン2回	○	
		専門家と連携した指導・相談の充実	49 精神科相談及び臨床発達心理士等と連携した相談の実施	年間相談延べ人数100名以上、精神科相談月1回	年間相談延べ人数100名以上 精神科相談月1回以上実施	◎	
			50 医療的ケアへの理解推進	年間1回実施	未実施	△	春季休業中に実施予定
		51 アクティブプランto2020に向けた基礎的体力及び、健康維持力の向上	習熟度別授業150時間	朝体育、新体力テスト実施	○		
		52 健康衛生への意識向上とスキルアップ、保健的自立の確立	保健指導 各学年1時間	各学年1時間以上実施	○		
	部活動・特別活動の充実	部活動の充実	53 運動系・文科系部活動の活動促進	加入率・普通科10%、職能開発科100%	普通科17.5%(23人)	◎	職能開発科は全員加入(100%)
			54 普通科、職能開発科協働による生徒会活動の充実	生徒会活動計画作成、委員会実施、職能開発科生徒会発足	スポーツフェスタ・東久留米フェスタ実行委員 普通科(委員会・生徒総会) 職能開発科(委員会・生徒会発足)	◎	
		55 近隣高等学校(久留米西高等学校等)との交流	年間3回	部活動交流5回程度 文化祭への参加1回	◎		
	適切な学校運営	服務事故防止の徹底	56 情報漏えい・休罰・わいせつ・汚職等の防止	服務研修3回、公費会計及び私費会計の適正な執行	3回実施	◎	
			57 予算編成指針の具現化、校務運営への協働推進	公費の効率的な執行、分掌業務への参画	概ね達成	○	経営企画室担当者が担当分掌会の議録を回覧
		働き方改革の推進	58 教職員の自立的な健康管理の推進	月超過勤務45時間以内、産業界による健康講演会 年間1回	月超過勤務45時間以内85% 健康講演会1回実施	○	
			59 学校閉庁日、定時退庁日の設定、年休取得促進	閉庁日年間5日、毎週水曜日定時退庁日、年間年休取得15日以上	概ね達成	○	
			60 育児休業等ライフステージに応じた制度利用の推進	男性教員の育児休業取得促進	引き続き推奨	○	希望者は全員取得できるよう推奨
					(まとめ) 「進める」の項目に挙げた取組みは、防災教育や健康づくり、生徒が主体となる活動と教職員の働き方改革について考え定めました。避難訓練や食物アレルギーに関する研修など生徒にとって安心安全な場所となるように取組みを進めました。新型コロナウイルス感染症のため、宿泊を伴う防災訓練や地域と連携した救助救急訓練など、やむなく実施できなかった取組みもありましたが、次年度のに向けて生徒が主体となる生徒会活動の充実や自然災害への備えなど、さらに「進める」を実践していきたいと考えています。		